

関西学院大学 研究成果報告

2024年11月13日

関西学院 院長殿

所属：経済学部
職名：教授
氏名：岡田敏裕

以下のとおり、報告いたします。

研究制度	<input checked="" type="checkbox"/> 関西学院留学 長期（滞在国：英国） <input type="checkbox"/> 関西学院留学 短期（滞在国：） <input type="checkbox"/> 宣教師研究期間 <input type="checkbox"/> 関西学院外留学（滞在国：）
研究課題	景気変動論と経済成長論、およびこれら2分野の統合的分析：Product Development Investments, Heterogeneous Belief and Bubbles
研究実施場所	Birkbeck, University of London
研究期間	2023年 9月 1日 ~ 2024年 8月 31日（12ヶ月）

◆ 研究成果概要（2,500字程度）

上記研究課題に即して実施したことを具体的に記述してください。

上記の研究課題に関して実施したことは主に5点ある。

第一に、研究滞在先のロンドン大学バークベック カレッジの教授であるGylfi Zoega教授（受け入れ教員）、Pedro Gomes教授、Yunus Aksoy教授と本研究に関連するマクロ経済学に関して意見交換を行った。

第二に、ロンドン大学のいくつかのカレッジ（ユニバーシティ カレッジ、ロンドンスクール オブ エコノミクス、バークベック カレッジ）で行われたマクロ経済学のセミナーに年間を通じて参加し、本研究に関連する最先端の研究を学んだ。また、本研究に関連するマクロ経済学の2つの会議（ユニバーシティ カレッジにて2023年12月開催 Gorman Conference and Lectures、バークベック カレッジにて2024年6月開催 BCAM VIII: Macroeconomics Workshop on Firms and Market Power）に参加し、最先端の研究を学んだ。なお、本研究の重要な点となる家計の異質性を含んだ最先端のマクロ経済数量モデルに関する研究に関するセミナーや会議セッションに集中的に参加した。

第三に、本研究のモデル構築とモデル数値分析を行った。具体的には、中期的な株価の変動を分析するために、景気循環モデルに家計の異質性と内生的な資本に付随する技術を組み込んだ中期的経済変動モデルを構築した。更に、構築したモデルを数値解析するためのコンピュータープログラムも作成した。本研究の数値解析は非常に複雑であるため、高速なプログラム言語が必要になるため、Juliaという近年マクロ経済学分析にお

いて次第に使用されつつある高速プログラミング言語を学習し、それを用いて本研究のモデルの数値解析を行った。

第四に、本研究の成果（タイトル：A Heterogenous Agent Model with Capital Embodied Endogenous Technological Change and Stock Price Fluctuations）を2024年6月にロンドン大学バークベック カレッジで開催された経済学セミナーにて報告し、セミナー参加者から多数のコメントを得た。またセミナー参加者と本研究に関し意見交換を行った。

第五に、本研究の論文（異質なエージェントのマクロ経済モデルと株価についての考察：A Heterogenous-Agent Model and Stock Price Fluctuations）を執筆した。論文は関西学院大学経済学論究第78番2号として発行予定である。論文は、2024年6月のロンドン大学バークベック カレッジで開催された経済学セミナーでの報告において参加者から得たコメントを反映させて完成させたものである。

以 上

提出期限：研究期間終了後2ヶ月以内

提出先：研究推進社会連携機構（NUC）

※関西学院留学は所属長を経て、宣教師研究期間の大学教員は学部長及び学長を経て院長に、高中部教員は各部長及び高中部長を経て院長に提出してください。

◆研究成果概要は、大学ホームページにて公開します。研究遂行上大学ホームページでの公開に支障がある場合は研究推進社会連携機構までご連絡ください。